

## 2005 年第 11 回 APLAC 総会報告

2005年 11月

独立行政法人製品評価技術基盤機構  
認定センター (AJapan)

2005 年 11 月 13 ~ 18 日にタイ王国チェンマイ市において、アジア太平洋試験所認定協力 (APLAC) の年次総会及び関連委員会が開催されました。当認定センター (AJapan) から4名が参加した他、日本からは、(財)日本適合性認定協会(JAB)、日本化学試験所認定機構(JCLA)及び(株)電磁環境試験所認定センター(VLAC)が参加しました。

### APLAC 会議日程

日時	AM	PM
2005 年 11 月 13 (日)	理事会	
14 (月)	セミナー	技能試験委員会
		研修委員会
15 (火)	技能試験委員会	技術委員会
	研修委員会	広報 情報委員会
16 (水)	相互承認評議会	
17 (木)	相互承認評議会	総会
18 (金)	総会	

### 会議概要：

#### ➤ MRA 参加者と APLAC メンバーの増加

APLAC 相互承認評議会において、CAEAL(カナダ、試験分野)、ema(メキシコ、試験、校正及び検査分野)、BPSLAS(フィリピン、試験及び校正分野)の新規相互承認(MRA)加盟が認められました。また、TAF(台湾)の検査分野への MRA の範囲拡張が認められ、APLAC-MRA 署名者は 17 経済地域 23 機関 となりました。これにより、アジア太平洋経済協力 (APEC) 基準 適合性小委員会(SCSC)の MRA 締結に関する行動計画 (~ 2005) が達成されました。一方、SCC(カナダ)、TLAS(タイ)及び TAF(台湾)の MRA 加盟継続も承認されました。また、新たに APLAC メンバーとなっていた NIER(韓国)と JSA-ANZ(オーストラリア・ニュージーランド)が初めて会議に参加しました。

#### ➤ MRA 参加者の ISO/IEC17011 対応

2004 年に発行された ISO/IEC 17011 「適合性評価機関の認定を行う認定機関に対する一般要求事項」への各 MRA 参加認定機関の適合性が評価されることとなりました。MRA 参加認定機関は 2005 年中に自己評価を行い、APLAC に報告し、次回の相互承認評議会 (2006 年 5 月シンガポール予定) でその結果が審議されることとなりました。

➤ **標準物質生産者認定相互承認の開始**

標準物質生産者の認定については、昨年の総会で、ISO Guide 34「標準物質生産者の資格に関する一般要求事項」とISO/IEC 17025「試験所及び校正機関の能力に関する一般要求事項」を認定基準として採用することが合意されましたが、今回は、これに対応する相互承認手順文書の改訂が行われ、基本的な合意が得られました。この分野の相互承認への参加は、来年1月から受付が開始され、遅くとも2007年春の相互承認評議会で参加承認が行われる見込みです。

➤ **新役員の選出**

理事2名の改選があり、当認定センター(AJapan)所長の瀬田勝男とSCC(カナダ)のJoAnne Dupont氏が選出されました。

➤ **他国際機関との協力**

APLAC とアジア太平洋計量計画(APMP)、太平洋認定協力(PAC)との覚え書き署名の内容が紹介され、基本的な方向性が了解されました。APMPとは国家計量標準研究所(NMI)の認定や各国認定機関の評価活動での協力、PACとは認定機関評価での協力が主要な内容です。

➤ **技術委員会**

40件に及ぶ議案が審議されました。中でも「標準物質製造者認定に関するガイド」、最高測定能力を示す用語の整合及び国家計量標準研究所の認定に関する整合手順ガイドは、理事会からの要求により重要案件として取り上げられ議論されました。これらは国際試験所認定協力機構(ILAC)の案件でもありますが、APLACにリートが求められているもので早期の対応が必要となっています。

なお、同委員会は、今回より当認定センター(AJapan)技術管理者の植松慶生が委員長を務めています。

➤ **法人化基本文書の承認**

APLACの法人としての登録をニュージーランドで行うための手続きが進められています。今回は法人としての基本文書(定款)が討議され、基本的に合意されました。これによりAPLACが他機関との正式な契約関係を結ぶ主体となることが可能となります。

➤ **認定関連の研修**

標準物質生産者認定の相互承認を推進するための研修を2006年の3月頃に中国で開催することが合意され、また、検査機関(ISO 17020)認定に係るワークショップも計画されることとなりました。なお、「不確かさ」に対する関心は依然として高く、将来のトレーニングコース開催に向けて調査を行うことが合意されました。

➤ **次回総会**

2006年9月に台湾/台北市において開催されることとなりました。

以上